

## イタリアグランプリに参加して

国際審判員 安永 三郎

FINAグランプリ（イタリア大会）が7月15日から17日の開催日程で開かれた。帯同審判員として参加させていただいた。ベローナ空港から北へ車で約1時間半、ボルザーノという町で行われた。参加国は26カ国、ジャッジのみ4カ国の計30カ国にもものぼった。やはり、あと1ヶ月に迫ったオリンピックに向けての調整の場であろうか。今回のトップ選手の参加国約10カ国であったであろうか。五輪のプールは屋外であり、話に聞くと天候に左右されやすいとか。いずれにしても、着々と五輪に向けての対策が進められている。

FINAからはKYTHY SEAMANさん、地元TDCのKlaus Dibiasisさんがこられていた。レフリーはValerio Polazzo氏とMarco Zampieri氏であった。ジャッジは試合に参加していない国のジャッジが選ばれた。予選はA、Bパネルの3本（あるいは2本）ずつの採点であった。朝、ジャッジミーティングがあり採点方法の確認が行われた。

1日目は強風であり、少し肌寒い感じの天候であった。前面からの強風でありなかなかスムーズに飛べない選手が多かった。その都度、レフリーにアピールを行っていた。2日目は風は強いが日差しも強かった。3日目は良い天候で風も気にならなかった。

日本選手の成績を見てみると非常によく、いい演技であったと思う。反面、この時期、このタイミングでの反省点が浮き彫りになったように感じた。それらをどのようにクリアしていくかが今後大きな調整へとつながるものであろう。予選は12位までの選手で偶数順位はセミファイナルAグループ、奇数順位はセミファイナルBグループに分かれた。男子選手は2名とも同じ組に入ってしまった坂井選手がファイナルに残った。例によってファイナルも前方向からの風がきつくより慎重にさせた。その中でイタリアの選手が1回止まって、2回目をある程度まとめた普通ならこれで2点減点で進むのだが、レフリーに「あれは風のせいであった」とアピールをした。レフリーはサブレフリーと相談している。この時点でKYTHYさんは駄目だという態度をとっていた。しかし、5分間協議の結果、飛びなおしと決定し再度演技を行った。（結果的には点数は悪かった）このことが後に演技する坂井選手に影響する。坂井選手の時ハードルの不安定さから飛び出しをやめてしまった。すぐに坂井選手はレフリーに手をあげてアピールした。そして2回目に成功した。得点は減点されていなかった。結局、2位で終了した。

次の日ミーティングで話があるかと思い聞いていた。昨日のことは何もなかった、今日は風が強ければいったん台から降ろすという事だけであった。そしてミーティングは終了。私はトレーナーで同行していた成田氏の助けを借りてKYTHYさんに「昨日の件、ルールではどうなっているのか？」たずねてみた。非常にむずかしい判断であったであろう。FINAのルールではありえないであろう。現にロンドン五輪のときイギリスの選手が演技中にフラッシュが目に入ったということのアピールしてきたこともあり判断が難しい。ただ、レフリーの権限で判断したとのこと、あの試合を任されているのはレフリーであり、このイタ

リアのグランプリを任されているのはいっさいの権限をもつレフリーである。という答えが返ってきた。

日本はというと、そこまでレフリーに権限をもたせているのだろうか。日本はレフリーの話相手、つまりサブレフリーも試合には参加しないことが多い。選手がおとなしいのでそこまでのことはないが、日本も審判団として確立したものをつくる必要がある。

さよならパーティーのときに、KYTHYさんとD i b i a s iさんに「2020年の東京オリンピックをよろしく」と頼まれて帰国の途についた。

最後に、海外で「君が代」を聞いたのははじめてであったので非常に感動した。2回目には佐々木選手と荒井選手ともに唄うことを忘れなかった。選手の皆さんご苦勞様、そしてありがとうございます。オリンピックまでわずか夢が完全に目標に変わっていた。

今回の遠征をするうえで格別の配慮をいただいた、日本水泳連盟をはじめ鳥取県教育委員会に衷心より感謝し、報告書とします。

2016、7、20